

地域ニュース

# 「びわ湖ブルー」で滋賀活性化を



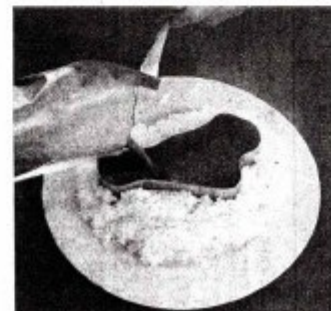
びわ湖ブルーシリーズなど「になって」が開発した商品

近江  
びわ湖

鳥塚顕史さん(63) 代表「になって」合同会社



びわ湖ブルーシリーズの商品で滋賀を活性化させたいと意気込む鳥塚顕史さん



びわ湖ブルーカレー。カラシでお見せできないのが残念

## カレーやラーメン、新作続々

### 人気のお土産に

「インパクトが欲しかった。食欲を減退させ、みんなが手を出さない色のカレーは面白いと感じた。それだけに、味にはこだわった。自信はある」

鳥塚さんがそう言うのは、滋賀の活性化を目的として、令和5年11月に開発をスタートさせた、昨年8月に発売した「びわ湖ブルー」の商品だ。今年度中に第4弾、第5弾、第6弾の商品の発売も予定しており、同社代表の鳥塚顕史さん(63)は「びわ湖ブルーシリーズを始めとした滋賀にかかわる商品で、滋賀を活性化させたい」と意気込んでいる。

### などをしてきた」

家族の問題もあり、10年ほどして故郷の滋賀に戻った。地元の商品会社などで営業、品質管理や商品開発に携わった。そして、令和3年7月、食品の企画、開発をベースとした合同会社「になって」を仲間3人と設立した。59歳だった。

### 京都、大阪でも

「2月に発売を予定しているのはスープが真っ青なラーメン。間違いないおいしい」と自曲自賛する。ラーメンは、これまで培った知識と経験を生かし、北海道の専門会社に依頼。さらに、3月にはクリームが真っ青なクリームパンも発売を予定しているという。

事業は今のところ順調だが、今後については順風満帆とまではいえない。

「いろいろな業者とも競合するので、びわ湖ブルーシリーズの商品はあまり広げすぎない。それより、滋賀はマーケットとして小さいので、次のステップを考えている。まずは、京都、大阪に販路を広げたい」

大阪府民には、(「買わんと」)琵琶湖の水止めたら、とパッケージに印刷すれば、効果的かもしれないが、京都人には通用しないかも。

課題は山積しているが、滋賀にかかわる商品の開発が滋賀の知名度アップ、滋賀の活性化につながることを確信している。取材をしていて、そのエネルギーが素晴らしいと感じた。

(野瀬吉信)



▶大津支局  
〒520-0043  
大津市中央1-3-2  
TEL077・522・6628  
FAX077・528・2311

販売・配達に関する  
お問い合わせ  
TEL06・6633・9357  
(平日9時～19時、土日祝日9時～17時)

身近な話題を含め、  
情報はこちらの  
Eメールアドレスまで  
お寄せ下さい

otsu@sankei.co.jp